# 『食品安全委員会とともに考える ～食のグローバル化 みんなで守ろう食の安全～』

詳しくは http://www.fsc.go.jp/iinkai/2008-5th/5th-kaigou.html

食品安全委員会では、設立5周年を機に、原点に戻って、食品の安全性の確保と、食品安全委員会の今後の課題などについて、改めて一緒に考える機会を持ちたいと考え、平成20年9月17日（水）、18日（木）の2日間にわたり東京において『食品安全委員会とともに考える～食のグローバル化 みんなで守ろう食の安全～』を開催しました。

## 開催にあたり、野田聖子大臣より、ご挨拶をいただきました。

※誌面の都合上、要旨を掲載しています。

野田　聖子
内閣府特命担当大臣
（科学技術政策、食品安全）
／消費者行政推進担当大臣

平成15年に誕生した食品安全委員会は、平成20年7月に5周年を迎えました。この間、国民の健康の保護を最優先し、食品の安全に「絶対」はない、ということを前提に、そのリスクを科学に基づいて、中立・公正に評価し、制御していこうという新しい食品安全行政の立ち上げと、推進に取り組んでこられた委員の皆さまや関係の方々のご尽力に、心から敬意を表します。

「食」は「命」そのものです。だからこそ多くの消費者、生活者がしっかりとリスクを把握しつつ適切に選択できるよう、導いていくことが極めて重要です。そのためには、委員会が今後もその役割・機能をしっかりと発揮していただくこと、そして、そのことをしっかりと皆さまにもご理解いただくことが大切であると私は考えております。

さて、政府においては、消費者庁設置の準備を進めています。その設置によって、食品安全委員会がその役割・機能を一層発揮しやすくなるよう、食品安全と消費者行政の双方を担当する大臣として、国民の目線に立って、両者が効果的に連携・パワーアップできるような体制の構築に努めてまいります。

食品安全委員会では、設立5周年という節目を機に、委員会の改善に向けた検討を開始されたと伺っております。今回、今後の課題等について、皆様と改めて一緒に考える機会を持つことは、大変意義深いものです。また今回、海外の専門家の方々にも多数ご出席いただいております。食のグローバル化が進む中、各国行政機関や国際機関との連携はますます重要です。これを機に、食品安全委員会との間で、日常的な情報交換・共有が行われ、連携が一層強化されることを期待しております。

最後に、食品安全委員会のますますのご活躍を祈念申し上げるとともに、担当大臣として、国民からより一層信頼される食品安全行政の実現に取り組む決意であることをお誓い申し上げまして、私からのご挨拶といたします。

## 「これまで」と「今後」を考える特別委員会

17日のオープニングセッションは、野田大臣の挨拶に始まり、見上彪食品安全委員会委員長の講演「食品安全委員会の5年間の取組と今後の課題」、欧州食品安全機関（EFSA）科学委員会及びアドバイザリーフォーラムユニット長であるディエン・リーム氏のEFSAの取組と今後の課題等についての講演が行われました。

その後、いつもの会議室からステージ上に場所を移しての「特別委員会」を、委員全員出席のもと、リーム氏を交えて開催。5年間で1,045件の諮問のうち621件を終了し（平成20年7月30日時点）、ポジティブリスト関係では全部で800近い農薬、添加物、動物用医薬品の評価を続けている現在の状況の紹介や、リスク評価とリスク管理の関係、リスクコミュニケーションの課題、EFSAでのそれらの状況や日本との組織の性格の違い・共通性などについて、意見交換を行いました。

# を開催しました

## より具体的なパネルディスカッション

5年間を振り返るには欠かせないBSE（牛海綿状脳症）のリスク評価やリスクコミュニケーションの試行錯誤について、パネルディスカッションを行いました。パネリストはディエン・リーム氏、プリオン専門調査会座長である吉川泰弘東京大学大学院教授、この6月までリスクコミュニケーション専門調査会の専門委員を務められた前全国消費者団体連絡会事務局長の神田敏子氏、食品安全委員会の小泉直子委員長代理、コーディネーターはNHK解説委員の合瀬宏毅氏です。BSEの評価についての経緯やその透明性の確保、消費者に対するマスメディアを含む情報発信の課題、「安全」と「安心」に関する自治体を含んだリスク管理機関との役割分担、20ヶ月齢以下の全頭検査などについて深い議論がなされました。また、これらを受けての会場との意見交換も活発に行われました。

## リスク評価・管理機関からの研究成果発表

長尾拓食品安全委員会委員をコーディネーターに、食の安全に関する研究成果の発表を合同で行い、また、会場との質疑応答を行いました。

●食品安全委員会の研究成果「器具・容器包装に用いられる合成樹脂のリスク評価法に関する研究」
（発表者:国立医薬品食品衛生研究所　広瀬明彦氏）

●厚生労働省の研究成果「いわゆる健康食品の安全性に影響する要因分析とそのデータベース化・情報提供に関する研究」
（発表者:独立行政法人 国立健康・栄養研究所 情報センター　梅垣敬三氏）

●農林水産省の研究成果「農林水産省におけるリスク管理の取組と調査研究〜クロロプロパノール（3-MCPD）を例に〜」
（発表者:農林水産省消費・安全局 消費・安全政策課　大島潔氏）

## 国際ミニシンポジウム

①「食文化と食の安全」
（コーディネーター:畑江敬子食品安全委員会委員）

「日本の伝統的な食文化の安全」について国立民族学博物館名誉教授・熊倉功夫氏の講演と、「食品のリスク認知—共通性と文化差」についてフランス国立科学研究センター研究ディレクターであるクロード・フィッシュラー氏の講演が行われました。その後、食品の安全を確保するために伝統的に培われてきた食文化などについて、会場を交えて意見交換が行われました。

②「食品安全のための国際連携」
（コーディネーター:廣瀬雅雄食品安全委員会委員）

「農薬の食品健康影響評価の国際化」について日本獣医生命科学大学教授・鈴木勝士氏の講演と、「国際ジョイントレビュー:新規農薬の有効成分」について米国環境保護庁農薬業務部登録課長であるロイス・ロッシ氏の講演が行われました。

その後、ジョイントレビューの実施にあたって問題となりうる各国評価法の違いなどについて、会場を交えて意見交換が行われました。

### この他にも、多彩な講演や意見交換などを行いました。

**■全国食品安全連絡会議**
**「地域におけるリスクコミュニケーションの促進」**

コーディネーター：食品安全委員会
野村 一正委員、本間 清一委員

●食品安全委員会のリスクコミュニケーションの取組
食品安全委員会事務局から説明。

●地域でのリスクコミュニケーションの取組の事例
栃木県宇都宮市での取組について、宇都宮市保健福祉部保健所生活衛生課総括主査 関哲 氏から説明。
兵庫県での取組について、兵庫県健康福祉部健康局生活衛生課食品衛生係長 橋田達慶 氏から説明。

**■食品の安全性確保の関連展示**
食品安全委員会および地方自治体等による食品の安全性に関する取組について、パネル等により紹介・解説。